

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年10月14日
【四半期会計期間】	第106期第1四半期（自平成28年6月1日至平成28年8月31日）
【会社名】	小津産業株式会社
【英訳名】	OZU CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 今枝 英治
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋本町三丁目6番2号
【電話番号】	03(3661)9400
【事務連絡者氏名】	常務取締役経営企画室長 稲葉 敏和
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋本町三丁目6番2号
【電話番号】	03(3661)9400
【事務連絡者氏名】	常務取締役経営企画室長 稲葉 敏和
【縦覧に供する場所】	小津産業株式会社大阪支店 （大阪府大阪市中央区瓦町二丁目3番10号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第105期 第1四半期 連結累計期間	第106期 第1四半期 連結累計期間	第105期
会計期間	自平成27年6月1日 至平成27年8月31日	自平成28年6月1日 至平成28年8月31日	自平成27年6月1日 至平成28年5月31日
売上高 (千円)	9,730,343	10,366,430	38,755,226
経常利益 (千円)	208,747	199,784	591,307
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	129,907	124,120	369,934
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	458,246	481,787	859,780
純資産額 (千円)	12,960,672	12,754,886	13,362,144
総資産額 (千円)	22,103,026	21,231,534	21,910,411
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	15.53	14.84	44.23
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	58.6	60.1	61.0

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定及び締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間（平成28年6月1日～平成28年8月31日）におけるわが国経済は、雇用環境の改善が見られるものの、円高・株安等の影響により企業収益が落ち込み、個人消費も引き続き足踏み状態が続いております。海外におきましては、米国経済が緩やかな回復基調を維持していますが、資源国やアジア新興国経済の減速並びに欧州経済の不安定化等により、先行き不透明な状況が続きました。

このような経営環境のもと、当社グループといたしましては、革新と挑戦をテーマに、「グローバル展開の更なる推進」、「革新的新事業・新商品の創出」、「コンバーター機能の強化拡充」、「小津グループ各社の連携による事業推進」、「次世代を担う人材育成」という中長期的な経営戦略に基づき営業活動を展開してまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は103億66百万円（前年同期比6.5%増）、経常利益は1億99百万円（前年同期比4.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億24百万円（前年同期比4.5%減）となりました。

当第1四半期連結累計期間のセグメント別の状況は以下のとおりであります。

（不織布事業）

エレクトロニクス分野では、自動車関連用途の電子部品・デバイス産業向けの販売が好調を維持しており、スマートフォン用途向け販売も増加したため、売上高、利益面ともに前年同期を上回りました。

メディカル分野では、衛生材料関連商品や歯科向け商品の販売が低迷したため、売上高、利益面ともに前年同期を下回りました。

コスメティック分野では、前年同期において実績のあった中国市場向けの販売が低迷し、国内におけるインバウンド需要も落ち込んだため、売上高、利益面ともに前年同期を下回りました。

小津（上海）貿易有限公司では、前年同期に対して売上高がほぼ横ばいであるものの、売上原価の上昇により、利益面では前年同期を下回りました。

ウェットティッシュ等の製造販売を営む株式会社ディプロでは、大手ドラッグストア向けのプライベートブランド商品の一部において販売が落ち込んだものの、除菌用途商品や新規商品の販売が好調に推移したため、売上高、利益面ともに前年同期を上回りました。

アグリ分野を担う日本プラントシーダー株式会社では、コーン、落花生等の大粒子テープの加工が堅調でしたが、北海道地区における人參播種テープの低迷や本年4月に発生した平成28年熊本地震による同地区での販売減少等の影響により、売上高、利益面ともに前年同期を下回りました。

これらの結果、売上高は33億81百万円（前年同期比3.1%減）、セグメント利益は1億73百万円（前年同期比2.8%減）となりました。

（家庭紙・日用雑貨事業）

連結子会社のアズフィット株式会社が営む家庭紙・日用雑貨事業につきましては、本年4月に発生した平成28年熊本地震を契機として消費者の備蓄意識が高まったことなどにより、家庭紙の販売が増加しました。また、前期に引き続き収益構造の見直しを図り、利益面でも復調を維持することができたため、売上高、利益面ともに前年同期を上回りました。

これらの結果、売上高は69億73百万円（前年同期比11.9%増）、セグメント利益は35百万円（前年同期比330.8%増）となりました。

（その他の事業）

その他の事業につきましては、売上高は10百万円（前年同期比1.9%増）、セグメント利益は6百万円（前年同期比11.2%増）となりました。

(注)日本プラントシーダー株式会社およびアズフィット株式会社の決算期は2月末日のため、当第1四半期連結累計期間には各社の平成28年3月から平成28年5月の実績が、株式会社ディプロの決算期は3月末日のため、当第1四半期連結累計期間には同社の平成28年4月から平成28年6月の実績が反映されております。

(2) 財政状態の分析

(資産)

資産につきましては、前連結会計年度末に比べて6億78百万円減少し、212億31百万円となりました。主な要因は、「受取手形及び売掛金」の増加1億80百万円、「投資有価証券」の減少8億85百万円であります。

(負債)

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて71百万円減少し、84億76百万円となりました。主な要因は、「支払手形及び買掛金」の増加1億70百万円、「繰延税金負債」の減少2億65百万円であります。

(純資産)

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べて6億7百万円減少し、127億54百万円となりました。主な要因は、「その他有価証券評価差額金」の減少6億円であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、8百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループ全体の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,000,000
計	25,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成28年8月31日)	提出日現在発行数(株) (平成28年10月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	8,435,225	8,435,225	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	8,435,225	8,435,225	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成28年6月1日～ 平成28年8月31日	-	8,435	-	1,322,214	-	1,374,758

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年5月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成28年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 70,500	-	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,359,200	83,592	同上
単元未満株式	普通株式 5,525	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	8,435,225	-	-
総株主の議決権	-	83,592	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の中には、証券保管振替機構名義の株式が100株(議決権の数1個)含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

【自己株式等】

平成28年8月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
小津産業株式会社	東京都中央区日本橋本町三丁目6番2号	70,500	-	70,500	0.84
計	-	70,500	-	70,500	0.84

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成28年6月1日から平成28年8月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年6月1日から平成28年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,874,904	4,928,692
受取手形及び売掛金	6,159,126	6,339,449
商品及び製品	1,500,404	1,665,161
原材料	493,280	471,796
繰延税金資産	62,619	47,442
その他	478,339	392,000
貸倒引当金	4,165	4,563
流動資産合計	13,564,509	13,839,979
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	5,112,052	5,112,392
減価償却累計額	3,148,214	3,178,901
建物及び構築物(純額)	1,963,838	1,933,491
機械装置及び運搬具	1,445,717	1,453,962
減価償却累計額	1,127,786	1,152,443
機械装置及び運搬具(純額)	317,931	301,519
土地	1,302,382	1,302,382
リース資産	28,490	28,490
減価償却累計額	14,774	15,791
リース資産(純額)	13,715	12,698
その他	344,576	345,896
減価償却累計額	300,042	301,695
その他(純額)	44,533	44,201
有形固定資産合計	3,642,402	3,594,293
無形固定資産		
その他	206,427	187,267
無形固定資産合計	206,427	187,267
投資その他の資産		
投資有価証券	3,946,515	3,061,018
長期貸付金	10,630	10,266
繰延税金資産	21,869	22,019
その他	526,496	525,435
貸倒引当金	8,438	8,746
投資その他の資産合計	4,497,072	3,609,994
固定資産合計	8,345,902	7,391,555
資産合計	21,910,411	21,231,534

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,798,065	3,968,958
短期借入金	1,220,000	1,300,000
1年内償還予定の社債	450,000	450,000
1年内返済予定の長期借入金	600,000	600,000
リース債務	4,123	4,145
未払法人税等	88,419	38,169
賞与引当金	50,288	53,799
その他	672,713	678,638
流動負債合計	6,883,610	7,093,711
固定負債		
社債	300,000	300,000
長期借入金	220,000	220,000
リース債務	10,142	9,097
繰延税金負債	842,574	577,414
退職給付に係る負債	115,110	119,691
その他	176,829	156,732
固定負債合計	1,664,656	1,382,936
負債合計	8,548,267	8,476,647
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,322,214	1,322,214
資本剰余金	1,374,967	1,374,967
利益剰余金	8,942,644	8,941,294
自己株式	83,209	83,209
株主資本合計	11,556,617	11,555,267
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,803,126	1,202,670
為替換算調整勘定	2,399	3,051
その他の包括利益累計額合計	1,805,526	1,199,619
純資産合計	13,362,144	12,754,886
負債純資産合計	21,910,411	21,231,534

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年6月1日 至平成27年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年6月1日 至平成28年8月31日)
売上高	9,730,343	10,366,430
売上原価	8,269,993	8,824,379
売上総利益	1,460,350	1,542,050
販売費及び一般管理費	1,261,706	1,327,124
営業利益	198,643	214,925
営業外収益		
受取利息	825	941
受取配当金	22,473	26,574
持分法による投資利益	2,544	1,697
その他	5,492	2,975
営業外収益合計	31,336	32,188
営業外費用		
支払利息	6,379	5,607
為替差損	12,925	38,531
その他	1,927	3,190
営業外費用合計	21,232	47,329
経常利益	208,747	199,784
特別利益		
固定資産売却益	14	-
投資有価証券売却益	0	-
特別利益合計	14	-
特別損失		
固定資産除却損	-	6
投資有価証券評価損	-	25,179
特別損失合計	-	25,186
税金等調整前四半期純利益	208,762	174,598
法人税、住民税及び事業税	46,588	40,101
法人税等調整額	32,266	10,376
法人税等合計	78,855	50,478
四半期純利益	129,907	124,120
親会社株主に帰属する四半期純利益	129,907	124,120

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年6月1日 至平成27年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年6月1日 至平成28年8月31日)
四半期純利益	129,907	124,120
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	332,313	600,456
為替換算調整勘定	3,974	5,451
その他の包括利益合計	328,338	605,907
四半期包括利益	458,246	481,787
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	458,246	481,787

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第1四半期連結累計期間(自平成28年6月1日至平成28年8月31日)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

当第1四半期連結累計期間(自平成28年6月1日至平成28年8月31日)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第1四半期連結累計期間(自平成28年6月1日至平成28年8月31日)

該当事項はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年6月1日 至平成27年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年6月1日 至平成28年8月31日)
減価償却費	86,331千円	83,667千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成27年6月1日至平成27年8月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年8月27日 定時株主総会	普通株式	125,470	15	平成27年5月31日	平成27年8月28日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成28年6月1日至平成28年8月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年8月26日 定時株主総会	普通株式	125,470	15	平成28年5月31日	平成28年8月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成27年6月1日至平成27年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	不織布	家庭紙・ 日用雑貨	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,488,961	6,230,663	9,719,625	10,717	9,730,343	-	9,730,343
セグメント間の内部売上高又は振替高	6,605	1,146	7,751	39,074	46,825	46,825	-
計	3,495,567	6,231,809	9,727,377	49,791	9,777,169	46,825	9,730,343
セグメント利益	178,532	8,150	186,683	5,906	192,589	6,054	198,643

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業であります。

2. セグメント利益の調整額6,054千円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成28年6月1日至平成28年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	不織布	家庭紙・ 日用雑貨	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,381,554	6,973,953	10,355,507	10,922	10,366,430	-	10,366,430
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,189	1,254	5,443	38,979	44,423	44,423	-
計	3,385,744	6,975,207	10,360,951	49,901	10,410,853	44,423	10,366,430
セグメント利益	173,577	35,117	208,695	6,568	215,263	337	214,925

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業であります。

2. セグメント利益の調整額337千円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年6月1日 至平成27年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年6月1日 至平成28年8月31日)
1株当たり四半期純利益金額	15円53銭	14円84銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	129,907	124,120
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	129,907	124,120
普通株式の期中平均株式数(株)	8,364,715	8,364,687

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年10月14日

小津産業株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 星野 正司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 水野 友裕 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている小津産業株式会社の平成28年6月1日から平成29年5月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成28年6月1日から平成28年8月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年6月1日から平成28年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、小津産業株式会社及び連結子会社の平成28年8月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。